

- ・表紙「令和3年度安曇野市文化祭」…………… p.1
- ・安曇野を知る1枚「白沢保美詩碑」…………… p.1
- ・地域文化祭（穂高・三郷）…………… p.2
- ・地域文化祭（堀金・明科）…………… p.3
- ・地域文化祭（豊科）…………… p.4
- ・ピアノリレーコンサート…………… p.4



### 令和3年度 安曇野市文化祭

10月から11月にかけて、各地域で文化祭が開催された。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、コンサートや発表会が中止となった地域もあったが、絵画・書道・写真などの作品や、菊花・盆栽などの展示はすべての地域で行われ、来場者を楽しませた。昨年は文化祭の開催が中止となった穂高地域では、芸能まつりが3日間行われ、10月31日には「あづみの鼓友会」の力強い太鼓の音が講堂に響いた。



### とよしな

豊科公民館は、10月28日から11月14日まで豊科地域文化祭を開催した。

#### 【きぼう会場】

10月28日から11月3日まで菊花展を開催した。163鉢の菊花が例年のように華やかに飾られた。会期中、晴天に恵まれ、多くの見学者があった。今年は30日に公民館の「楽しい菊づくり講座」特別講座があり、12人が参加した。講師の鈴木さんが受講生の出展作品を講評し、出席者は熱心にメモを取ったり、質問したりしていた。

10月30日、31日には、多目的交流ホールで書道・華道・フラワーアレンジメント展が開催された。華道の出展が昨年より減少したが、秋の風情を感じる各流派の力作が展示された。フラワーアレンジメント同好会は生活の中の身近なものに花を生け、新しいアイデアの取り組みに心が躍った。書道は3団体の素晴らしい作品が展示され、中でも子どもたちの作品は力強く、元気もらった。

#### 【豊科公民館会場】

11月3日には、2年ぶりに芸能発表会が開催された。発表会に先立ち菊花展表彰式が行われ、最優秀賞に輝いた大澤泰徳さんは喜びと共に仲間づくりの大切さを語った。ステージ発表では、箏とピアノによる演奏に始まり、日本舞踊が5団体、オカリナ演奏・箏演奏・剣舞の各団体が出演した。「安曇野お琴の会」は、小・中学生を含む6人で息の合った演奏を披露した。午後には、コロナ感染防止のため出演が見送られた豊科地域の小・中学校が事前に録画した演奏が上映された。この上映は、文化祭一般作品展示でもロビーで上映された。



6日、7日は絶好の秋晴れに恵まれ、文化祭日和であった。公民館の入り口では懸崖菊や大輪、

菊の盆栽が来館者を出迎え、ほのかに菊の香りが漂い、秋を感じさせられた。一般展示の出展数は昨年を下回ったが成相地区子ども会育成会「よいそれ祭」の灯籠が初出展で目を引いた。



#### 【ピアノリレーコンサート】

豊科公民館は、11月13日に大ホールでピアノリレーコンサートを開催した。2年目となる今年は、ジュニアの部の募集も行い5人の小・中学生が出演し、堂々とした素晴らしい演奏を披露した。



一般の部には11団体25人が出演した。ピアノ独奏、連弾、ピアノと鍵盤ハーモニカの合奏、ピアノとカホンの演奏など、いろいろな演奏形態があり、楽しく聴くことができた。

普段は目にすることがないカホンという打楽器は穴の開いた長方形の木箱をたたいて音を出す。ピアノの演奏によってアップテンポで演奏され、会場全体が楽しく盛り上がった。



### 安曇野を知る1枚 白沢保美詩碑（三郷明盛）

心に太陽を持って 照る日 曇る日 そりゃ天候だ 嵐が吹こうと 雪が降ろうと  
いつも 心に太陽を持って ~ゆりの木とヒマラヤ杉の父 白沢保美愛唱の碑より~  
この詩碑は、三郷交流学習センター「ゆりのき」の前庭にある。三郷出身の林学の権威、白沢保美博士の徳をしのび、昭和39年温明小卒業生により建立された。



#### 編集後記

◆強風にあおられ、木々は葉を落とし遠くの風景が見える季節となった。新型コロナも落ち着き、日常生活が少しずつ戻ってきたが、まだ未来が見えるとは言い難い。厳しい寒さを乗り越えた先に暖かい春が来るように、明るい未来を期待したい。(K・Y)

◆安曇野の水田を潤す拾ヶ堰の流れを止めて、堀金小学校東の大曲り付近を小学5年生と社会人有志が清掃をした。環境問題と世代交流が教えてくれたものは、現代を象徴する世相を垣間見る縮図の様だ。(T・Y)

# 【地域文化祭】



堀金公民館は、11月13日、14日の2日間、堀金総合体育館で堀金地域文化祭を開催した。

コロナ禍でサークル活動に規制を受ける中、33の団体と個人が作品展に出品した。菊花・フラワーアレンジメント・フラワーボトルなどの艶やかな花々や地区公民館サロン・老人クラブ・地域団体の手芸品が並び、認定こども園や福祉施設からの力作も展示された。

「見岳荘」の山田豊さんは、利用者が力を合わせて作った作品の説明をしていた。俳句会・短歌会は、豊かな視線で詠み上げた作品で入選を競い、選者の講評も掲示された。郷土史の研究を重ねてきた「ふるさとを学ぶ堀金友の会」の記録の展示もあった。写真は、熟練の技量を発揮した作品が並んだ。青柳康雄さんは、映像の趣に合わせて写真用の和紙を取り寄せ、写真用紙と分けて現像していると話していた。書道や絵画では、社会人の秀逸な作品のほか、小・中学校での授業の成果が発揮された作品が展示された。校舎と花を描いた絵が展示された堀金小6年のタナカ愛琳寿さんは



「授業で6時間はかかった」と描き上げるまでの様子を話していた。絵画や書道の他にも厚紙で作ったギターやペン立て、布製品や木工品、金属加工品などが展示されていた。

去年は中止となり、開催を待ちわびていた芸能発表会は、ステージ発表は見送られ動画発表となった。12団体が事前に撮影した映像が体育館舞台上に設置したスクリーンに映し出された。フラダンスの優雅に踊る様子やキッズダンスの軽快なダンス映像から始まり、作品展の会場には大正琴や横笛、オカリナの音色や威勢の良い太鼓の音、民謡などが流れていた。



「第17回穂高文化祭」が10月22日から11月14日まで、穂高会館と穂高神社の2会場で開催された。

【穂高会館会場】  
10月29日～31日には「総合美術展」「芸能まつり」「高齢者作品展」が開催された。

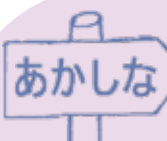
「総合美術展」では、彫刻・絵画・書道・押し花・写真・生け花・木目込み人形・ヒョウタン作品や安曇野の先人紹介などの数多くの作品や、穂高地域の小・中・高校生の美術作品など、さまざまな作品が体育館アリーナの会場を埋め尽くしていた。安曇野のビデオ放映コーナーも設けられていた。



講堂では「芸能まつり」が開催され、29日には「カラオケ発表会」が開催された。30日の「芸能まつり第1部」では、27団体が歌謡吟詠と詩舞・ロックダンス・フラダンス・民謡・舞踊などのさまざまな演技で観客を楽しませていた。31日の「芸能まつり第2部」では、9団体が合唱やジャズ・ウクレレ・アルプホルン・三味線・和太鼓などの演奏で観客を魅了していた。

「高齢者作品展」では、毎年1作ずつ制作しているという方のつまようじ作品の「東光寺」が目を引き、参観者は見入っていた。

【穂高神社会場】  
10月22日～24日には「盆栽・山野草展」、10月25日～11月7日には「穂高人形展」、10月30日～11月14日には「あづみ野菊花展」が開催された。



去年はコロナ禍で、芸能発表会が中止となり2日間に縮小した少し寂しい文化祭だったが、今年は11月5日から7日までの3日間開催することができた。

一昨年と比べて出展数は少ないものの力作が数多く展示された。折り紙の会の先生も「指を動かすことで脳のトレーニングになる」と話されていたが、コロナで自粛生活を送ってきた中で、木彫りや編み物などの作品作りにつとつと打ち込んできた作者の努力が感じられた。

5日の午後には、講堂で「歌声サロン」が開催された。明科公民館ではおなじみとなった池田町の柴田さんが伴奏するアコーディオンに合わせて、スクリーンに映された歌詞を見ながら20人ほどの参加者の美しい歌声が講堂に響いた。

6日には「お楽しみサロン」の8組のステージが開かれた。ZUMBAmerahの10人によるリズムカルな音楽に合わせたダンスから始まり、新井さんのピアノ伴奏に合わせた飯田さんのバイオリンコンサートで午前中のステージは終了した。安曇野市出身の2人は、コロナ禍でコンサートが開催できず、こうして舞台に立つことが出来て喜んでいました。



午後は、明科高校吹奏楽部の吹奏楽アンサンブルから開幕となり今年初めての生徒会によるダンスパフォーマンスが披露された。思うような高校生活が送れない中、新しい生徒会のメンバーを中心としたリズムカルなダンスが印象的だった。親子での「にじいろピアノ」の演奏や「おやじ2人のベンチャーズ」によるエレキギターで華やかかつにぎやかな演奏の後、年少から高校生までの5組のダンスが披露され、最後は信州あすなろの会による太鼓演奏で幕を閉じた。

7日には、明科芸術文化協会による芸能発表会が開催され、舞踊や詩吟、コーラスや大正琴の演奏などがあつた。



11月6日、7日の2日間、三郷公民館において「三郷地域市民文化産業展」「市民菊花展」が開催された。

ロビーには出展者が日頃から丹精を込めて育て上げた自慢の小菊や大輪などの菊の花が所狭しと展示され、仕立て方や花の形状など驚くほど見事なものも多く参観者は素晴らしいさに圧倒され、興味深げに見入っていた。

講堂では個人、各種クラブや団体の作品とともに小学校や中学校の児童生徒の作品も展示された。絵画・写真・生け花・書道・短歌・押し花絵・陶芸・盆栽・山野草・工芸品・工作などの作品も力作で目を見張るものばかりだった。



また、児童生徒たちの作品は微笑ましく心温まるものがあり、制作時の様子が目に浮かぶようで、中学生ともなれば力強く、大人顔負けの素晴らしい作品が多数あつた。

別室では「おらほの地区」と題した各地区の紹介や地域にまつわる多種多様な仏像についての詳しい紹介などもあり、自分が暮らす地域をさらに知る良い機会となったのではないだろうか。また、三郷図書館で行われたワークショップに参加した子どもたちが一生懸命作った万華鏡も展示された。

三郷昆虫クラブの部屋では、虫が飛び立つ瞬間をとらえた貴重な写真パネルや多くの昆虫標本と、子どもたちが昆虫の生態について調べた研究成果が展示されていた。この部屋を訪れた子どもも大人も目を輝かせながら熱心に観察しクラブ会員の説明に聞き入っていた。

こどもいけばな教室の生け花の展示からは、美しいたたずまいを表現しようとする子どもたちの熱意が強く伝わってきた。来年こそは芸能発表会の開催を期待する声が多く聞かれた。

